

16.08.2010

新型インフルエンザ情報（2010年08月16日）

新型インフルエンザの流行状況に関する情報を以下の通りお知らせします。
なお、以下の情報は外務省のHP「海外安全ホームページ」にも掲載されています。

（感染症広域情報）

1. 2010年8月10日（日本時間），世界保健機関(WHO)は，専門家による緊急委員会を開催した結果，新型インフルエンザ（A/H1N1）の現在の流行段階は，パンデミック警戒レベル「フェーズ6」から「ポストパンデミック」期に移行した旨発表しました。WHOによれば本発表は，新型インフルエンザ（A/H1N1）ウイルスの消失を意味するものではなく，同ウイルスは季節性インフルエンザと同様の動向となりつつあり，今後もしばらく存在し続けることが予想されるということです。なお，ニュージーランドやインドなど一部の国では引き続き同ウイルスの流行が見られるものの，世界的にはインフルエンザシーズン以外には同ウイルスの流行が見られず，感染力は季節性と同程度であること，また，多くの国から季節性インフルエンザの流行期と同様に，複数のインフルエンザウイルスの混在が報告されているということです。WHOは今後も引き続き警戒を続けることが重要であるとし，「ポストパンデミック」期間においても，引き続き流行状況の把握，ワクチン接種，医療提供を推奨しています。

WHOは、2010年8月1日現在，全世界の死亡者は少なくとも18,449人と発表しています。しかしながら，2009年7月16日のWHOによる、「全ての国・地域の確定症例数の公表取りやめ、感染が継続している加盟国からの感染確定症例数の報告を今後は求めない」との方針，及び，検査を受けず、またインフルエンザ関連と診断されない死亡者も多いことから、これは実際の死亡者数よりも少ないとしています。なお，WHOが公表しているWHO地域事務局別死亡者数は以下のとおりです。

| | |
|--------------------|--------------|
| WHO アフリカ地域（AFRO） | 168人 |
| WHO 米州地域（PAHO） | 少なくとも8,533人 |
| WHO 東地中海地域（EMRO） | 1,019人 |
| WHO 欧州地域（EURO） | 少なくとも4,879人 |
| WHO 南東アジア地域（SEARO） | 1,992人 |
| WHO 西太平洋地域（WPRO） | 1,858人 |
| 合計 | 少なくとも18,449人 |

詳細については，以下の地域事務局ホームページを御確認ください。

WHO アフリカ地域（AFRO）：

http://www.afro.who.int/index.php?option=com_docman&Itemid=2680

WHO 米州地域（PAHO）：

http://new.paho.org/hq/index.php?option=com_content&task=blogcategory&id=805&Itemid

WHO 東地中海地域 (EMRO) :

http://www.emro.who.int/csr/h1n1/h1n1_update.htm

WHO 欧州地域 (EURO) :

<http://www.euro.who.int/en/what-we-do/health-topics/diseases-and-conditions/influenza/pandemic-h1n1-2009>

WHO 南東アジア地域 (SEARO) :

<http://www.searo.who.int/en/Section10/Section2562.htm>

WHO 西太平洋地域 (WPRO) :

http://www.wpro.who.int/health_topics/h1n1/

2. 新型インフルエンザとは

新たにヒトからヒトへ感染する能力を有することとなったウイルスを病原体とするインフルエンザであって、一般に人類が免疫を獲得していないことから、大規模かつ急速なまん延により人類の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるものをいいます。

今般、メキシコや米国等で感染が確認されたインフルエンザ (A/H1N1) は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する法律」第6条7号に規定する新型インフルエンザに位置づけられました。

3. 新型インフルエンザ (A/H1N1) の症状

突然の高熱、咳、咽頭痛、倦怠感に加えて、鼻汁・鼻閉、頭痛等であり季節性インフルエンザと類似しているといわれています。ただし、季節性インフルエンザに比べて、下痢や嘔吐が多い可能性も指摘されています。

4. 感染防止策

(1) こまめに手洗いやうがいを行う。

手洗いは、外出後に行うだけではなく、可能な限り、こまめに行う。流水と石けんを使って最低15秒以上行い、洗った後は清潔なタオル等で水を十分に拭き取る。

(2) ウイルスは粘膜を介して感染するので、口、鼻、目などの粘膜部分に手で触れない。

(3) 咳や発熱などの症状のある人に近づかない。人混みの多い場所に行かない。マスクは、咳やくしゃみによる飛沫及びそれらに含まれるウイルス等病原体の飛散をかなり減少させることが期待できるため、インフルエンザ様の症状がある方がやむを得ず外出する場合は、飛沫を防ぐために、混み合った場所（特に屋内や乗り物など換気が不十分で閉鎖的な場所）に入るときには着用する。

(4) 発熱や咳などインフルエンザと似た症状がみられた場合には、現地の医療機関を受診する（ただし、国・地域によって状況が異なりますので、渡航・滞在先の公館等に御確認ください）。

(問い合わせ先)

○外務省領事局政策課

電話：（代表） 03-3580-3311 （内線） 2850

○外務省領事局海外邦人安全課

電話：（代表） 03-3580-3311 （内線） 5140

○外務省領事サービスセンター（海外安全担当）

電話：（代表） 03-3580-3311 （内線） 2902

○外務省海外安全ホームページ

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

（携帯版） <http://www.anzen.mofa.go.jp/i/>

（関連ホームページ）

○厚生労働省ホームページ（新型インフルエンザ対策関連情報）

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/index.html>

○国立感染症研究所感染症情報センターホームページ（新型インフルエンザ（A/H1N1））

http://idsc.nih.gov/disease/swine_influenza/index.html

○世界保健機関（WHO）ホームページ（新型インフルエンザ関連）

<http://www.who.int/csr/disease/swineflu/en/index.html>（英語）

○CDC（米国疾病予防対策センター）

<http://www.cdc.gov/h1n1flu/>（英語）

○農林水産省ホームページ（新型インフルエンザ関連情報）

<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/ampo/pdf/shiniful.html>